

業訓練施設ができたこと、主として炭鉱離職者を対象とする荒尾の訓練所の新設、あるいは熊本職業訓練所の新築拡充などが数えられます。

また、次代の農民を育成するための施設としての、県の「経営伝習農場」の收容人員を大幅にふやし、あるいは「県立女子大」の施設を強化充実したこともその一環ですし、今年度新設開校しようとしている「消防学校」あるいは、若い建設機械技能者の養成を目的として、来年一月七日に発足させる「産業開発青年隊」の新設もそのあらわれです。

また、子供たちの健全な育成をはかるために、へき地に児童センター「なかよし号」を巡回させたり、新しいこころみとしては「親と子のしおり」をつくって、各ご家庭にお配りしました。

社会福祉協会、婦人会、青年団等各種社会団体がかねて要望しておられた「総合会館」の建設もメドがつき、近く着工のはこびとなつています。今後の問題としては、「国立青年の家」をぜひ阿蘇へ誘致しようとして、いま運動を展開中です。

社会福祉や衛生面にも力を

以上主として「県計画」の線に沿った諸事業の話を進めてきましたが、これらのほかに、社会福祉や衛生の面にも、大いに意を用いてきました。

恵まれない子供たちへの対策の一つとして、母子家庭の子供に対する「知事の身元保証制度」を三十四年度から発足させ、非常に喜ばれていますし、「引揚者住宅の改築」も進めており、今年度までに百六十五戸を近代的な住宅に改築しました。

昨年非常に流行をみた「小児マヒ対策」としては、どこも県よりも、生ワクの投与対象人数をふやし、しかも全部無料で実施しました。

更に今年度は、この対策の一環として「蚊やハエの一斉駆除運動」を展開して、いずれも相当な実績を挙げることができました。

身体不自由児を対象とする「松橋療護園」も相当拡充し、今年は特に、收容しきれない子供たちの通園治療ということを考えて、通園バスを購入したりして、恵まれない子供たちの対策を少しでも進めていこうと考えています。

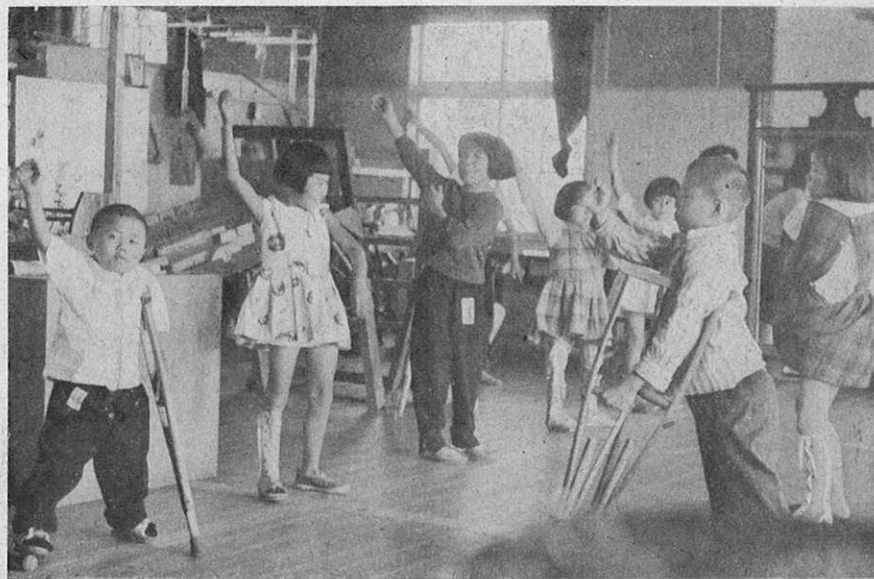
また、母と子の健康を守る「母子健康センター」を県下に七カ所設置しましたが、これは九州各県のうちで最も多く、今後も更にふやしていく考えです。

各種の施設も続々と新設

以上で、三十四年から三十七年までの、県政の大きな流れと「県計画」について概観してきましたが、ここでいま一段掘り下げて、いろいろな角度からピック・アップしてみましよう。

まず三十四年には、前述のように県営の種鶏場を玉名に設置して、その後拡充強化に努めているほか、ビートの栽培試験場を黒石原に誘致していますし、また、富岡にあつて非常に狭かった「水産試験場」を本渡に移転して、内容の充実と整備をはかりました。

水産業といえば、県では特に養殖漁業の振興に力を注いで



元気な松橋療護園の子供たち

また「結核命令入所患者」の数が、従来百七十人程度であったものを、今年度は一躍二千百七人と、相当大幅に数をふやして医療の完璧を期し、あるいは精神病対策としても、従来百人程度の措置入院数であったものを、今年度は九百六十五人というように、大幅にふやしています。

います。

また、真珠は本県漁場の優秀性から、「天草パール」の声価が次第に高まつてきており、生産の伸びも、三十四年に七百五十三キログラム（一億七千五百万円）であったものが、三十七年度には三千キログラム（七億円）という大きな生産を挙げるに至っております。

試験研究機関の整備のほか、漁業取締船や指導船の整備にも力を入れてきましたし、また「沿岸漁業構造改善事業」を進めるために、三十六年から普及員制度も新たに設けました。

三十五年になると、大阪地区へ就職していく人々の住居の不安をなくすために「大阪通勤寮」をつくって喜ばれています。

のり研究所

また、水産面では、全国ではじめての「のり研究所」を三角につくりましたし、林業面では五家荘の「林業公社」をつくり、造林に力を入れてい